

# 災害 起きる前に

2

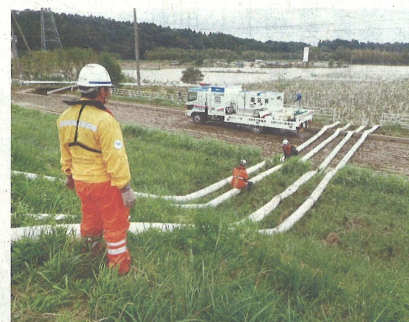
## インフラ維持と地域支援

企画・制作 新日本海新聞社地域プロデュース局

能登半島地震は7月1日で発生から半年となりました。石川県で最大3万人を超えた避難者は2千人台となりましたが、全半壊した建物の公費解体の遅れなどが指摘され、復旧の遅れによる人口流出が問題視されています。

災害に備えるため全国の自治体では企業や団体と各種の防災協定を結び、各種インフラを担う企業は復旧・復興作業を迅速なものにしています。当企画では、日ごろの防災活動や災害への備えなどを紹介します。

### 美保テクノス株式会社 (米子市昭和町)



茨城県水戸市で排水作業を行う社員

公共工事や公共維持工事などの携わる美保テクノスは、県や県内の自治体と災害協定を結び自然災害に備えている。道路では鳥取県西部エリアの国道9号の維持を担当。島根県との県境から大山町内の約30キロ、自動車専用道路区間も合わせて延べ54キロを見守る。震度5以上の地震発生時は、同社ランドサポート事業部の8人が4班に分かれてパトロー

ルに出発し、1時間以内の調査完了を目標に行動する。路面やのり面などに異常が見つかれば、国や県などの道路管理者に報告するとともに補修を担当する。業者には常に除雪体制をとり、気温1度を下回ると、除雪出動に対応する。国とも災害協定を結んでおり、2019年の台風19号では茨城県水戸市、2018年の西日本豪雨では広

島県三原市で、それぞれ排水や道路清掃などの災害支援を行った。昨年8月に完成した新社屋には大人60人が1週間生活可能な食料や飲料水、毛布などを備蓄する倉庫を設置し、ビル屋上の自家発電機や少ない水で利用できる災害配慮トイレも設けた。1階の多目的ホール(約185平方メートル)や5階のリフレッシュルーム(約86平方メートル)を近隣の住民の避難所として活用できるように、10月に米子市と協定を結んでいる。野津健市社長は「地域あつての当社。平素は地域の繁栄のために貢献し、非常時には地域の安全確保や生活を守るために先陣を切って行動したい。地域のインフラの守り手として、最前線で活動する覚悟を持っている」と話している。

守り手として最前線で活動

夢、まち、人づくり。  
**MIHO**  
美保テクノス株式会社

〒683-0037 米子市昭和町 25  
TEL0859-33-9211

Instagram »



Facebook »

